

令和 6 年度

川崎市立川崎高等学校附属中学校入学者決定検査

適性検査Ⅱ（45分）

—— 注 意 ——

- 1 「はじめ」の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題は全部で2つあります。こちらから開くと**問題1**（全6ページ）になります。**問題2**（全2ページ）は反対面から始まります。
- 3 問題をよく読んで、答えはすべて解答用紙の決められたらんに、分かりやすくていねいな文字で書きましょう。解答らんの外に書かれていることは採点しません。
- 4 解答用紙は全部で**2枚**あります。
- 5 計算やメモが必要なときは、解答用紙には書かずに、この問題用紙の余白を利用しましょう。
- 6 字数の指定のある問題は、指定された条件を守り、最初のマスから書き始め、文字や数字は一マスに一字ずつ書きましょう。句読点「。」やかつこなども一字に数えます。ただし、**問題2**は、その問題の「**注意事項**」の指示にしたがいまししょう。
- 7 「やめ」の合図があったら、途中でも書くのをやめ、筆記用具を机の上に置きましよう。

問題1

たろうさん、はなこさん、じろうさんは俳句「梅一輪一輪ほど
のあたたかさ」*2かんばい（寒梅が一輪咲いている。それを見てみると梅一輪ほどのあたたかさを感じられる）を読み、その内容を生かして書かれた短い文章を三つ読みました。次のあ、い、うの文章と、それらを読んだ後のたろうさんとはなこさんとじろうさんの会話文を読んで(1)～(10)の各問いに答えましょう。

あ

私がこの街に引っ越してきて一週間がたつ。新しい学校には慣れず、すでに人間関係が出来上がっているクラスではなかなか友達を作ることができない。

「行きたくないな……」

学校に向かう足取りが（ア）なる。この街の冬はとても寒く、雪も積もるほどに降る。昔の私なら、朝起きたときに雪が積もっていたら、飛び上がるほど喜んでいたにちがいない。雪が積もった道を友達と歩きながら、「きれいだね」「冷たいね」と笑い合っていたことを思い出す。でも今はちがう。雪の日に一人でいると余計にさびしい気持ちになる。雪は真っ白できれいだけど、その白さが私しかいないように感じさせて、もつともつとさびしくなる。まるで真っ白で静かな世界で、たった一人で歩いているような気持ちになるのだ。そんなふうに考えていると、学

校へ行きたくない気持ちが増していき、ついに足が動かなくなってしまった。

「どうぞどこへ行ったって、私は、一人なのに」あ。冷たい！」

急にほほに冷たさを感じた。雪が、当たったようだった。顔を上げると、雪が積もった梅の木が目に入った。ほほにあたった雪はこの木に積もっていたものらしい。黒い枝も白くなるほど積もっていたが、真っ白な中にポツンと小さなピンク色が見えた。じつと見ると、梅の木に、梅の花が一輪だけ咲いていた。春はまだ先なのと思ったが、冬に咲く梅もあると以前、聞いたことを思い出した。

「……あなたも一人なの？」

一輪だけ咲く花に、そう問いかけた。（A）不思議と、私はその花にさびしさを感じていなかった。咲いているのは一輪だけだが、そのかわいかいピンク色、かわいらしい形はさびしさを感じさせるものではなかった。あんなに寒かったのに、私はそのピンクの花を見た瞬間、少しあたたかさを感じた。寒さの中に、パツと明かりがともったように感じた。「一人じゃないよ」と花が私に言ってくれたように感じた。たった一輪だけれど、その小さな花が明かりになって、私の心をあたたためてくれたのだ。さつきまで感じていたさびしさが少し無くなったような気がする。

「今日、だれかに話しかけてみようかな」

私は顔を上げ、学校への道を歩き出した。

【い】

今日はいやなことばかりだった。朝、登校途中とちゆうに転んだ。体育の授業ではシュートが一本も決まらなかった。昨夜、頑張がんばってやった宿題を家に置き忘れてしまい、授業中に発言できなかった。(a)がつのり、友達とちよつとしたことで口げんかしてしまい気まずくなってしまった。おまけに帰り道には雪まで降ってきた。

雪は(b)降ってきて、あまりの寒さに身ぶるいをした。かじかむ手に息をはきかけながら(c)歩くうちに、なみだで目の前がぼやけてきた。

いつも通りぬける公園の木々にも(d)雪が積もり始めていた。そんな白一色の世界の中に、かすかな色味が見えたような気がした。はっとして目をこすって近づいてみると、それはべ4に色の梅の花だった。ほかにも咲いていないか探してみたけれども、雪の中咲いていたのはたったの一輪だけ。雪を少しのせたその姿は、妹のひなまつりでかざられる小さな赤いぼんぼり5のようにも見え、思わず手をかざした。

雪は相変わらず降り続けている。(A)かざしたてのひらに(e)あたたかさが伝わってくるような気がして、自然と笑みがこぼれた。

早く家に帰って友達に電話しよう。「さつきはごめん。(a)をぶつけて」って。

小さな赤いぼんぼりに見守られながら、私は雪降る公園を後にした。

【う】

祖父が亡なくなり一ヶ月がたった。はだをつきさすような冷たい風が吹く日、両親に連れられて祖父の家の片付けをしに行った。祖父は静かな山のふもとで一人暮らしをしていた。こうした寒い季節に祖父の家を訪れるのは初めてであった。

きちんと整理整頓6された室内。居間には、祖父が手塩7にかけて育てた鉢植はちうえの花や、五月人形の横で笑う幼おさないころの父、母に抱だかれた赤ちゃんのころの私、夏休みに祖父のもとへ遊びにきたときに家族みんなですいかにかぶりついているときの写真などがところせましとかざってあった。一つ一つ手に取って見ているうちに、目頭めがしらが熱くなった。

その中に見覚えのない写真が一枚かざってあった。首をかしげながら写真を手取る。なんの花だろう……梅の花かしら。

それは木の枝にぽつんと一つだけ咲く赤い梅の花の写真だった。花の写真は他にもあったけれども、他と比べてずいぶんと地味な写真だった。梅の花……おじいちゃん……祖父のやさしい笑顔とともに、ゆっくりと思いがよみがえってくる。

「おじいちゃんが一番お気に入りの花は寒梅というんだ。冬は花も草もかれて暗い木々の枝ばかり。そんな季節に咲くのが寒梅なんだ。おじいちゃんいっしょうけんめいは寒さに負けず一生懸命咲いている寒梅を見るとうれしくなる。

美しい花はたくさんあるけれども、おじいちゃんは寒梅が一番いいなあ。特に寒い中、勇気を出して一番はじめに咲いた寒梅を見ると幸せになれるような気がするんだよ」

庭の手入れをよくしていた祖父。梅の木も庭にあって、夏休みに遊びに来たときにはよくのびすぎた枝を切っていたつげ。

少しくもった窓ガラスごしに庭を見る。庭には夏休みに遊びに来たような色はない。(A) そんな色のない庭から突然赤い色が目飛びこんできた。

それは——かざってあった写真と同じ赤い梅の花だった。冷たく吹きすさぶ風にも負けず、一輪の梅の花が力強く咲いていた。そこだけ命のぬくもりを感じさせるかのように。

なみだがほほをつたう。

もうこの世にはいない祖父の思いにふれたような気がした。私に見せなかったんだね。父や母にも。みんなに(イ)になってほしいって。

「お父さん、お母さん、早く来て」

私は大きな声で父と母を呼んだ。

窓の外からは冬の午後の日差しが部屋に差しこんでいた。

【いずれも適性検査のために作成した文章】

*1 梅一輪一輪ほどのあたたかさ……江戸時代の俳人、服部嵐雪はっとりらんせつの句

*2 寒梅……冬の終わりの寒い時期に咲く梅のこと。

*3 つのり(つる)……ここでは感情や思いが強くなる意。

*4 べに色(紅色)……あざやかな赤い色のこと。

*5 ぼんぼり……断面が六角で上がやや開いた形のわく組みに紙をはって覆いおほとした小型のあんどん(照明具の一種)のこと。

(図)

図



*6 居間……住宅内にある部屋の一つ。家族がふだん集まる部屋のこと。

*7 手塩にかけて(手塩にかける)……ここでは世話をして大切に育てるの意。

(1) 文章[あ]の内容から考えて(ア)にあてはまる言葉としてふさわしい言葉をひらがな三字で書きましよう。

(2) 文章[あ]の内容をふまえて、[あ]にあてはまる「私」の考えを「学校」という言葉を入れて十五字以内で書きましよう。

(3) 文章〔あ〕において、「私」は「白」「ピンク」の色にそれぞれどのようなことを感じていたのでしょうか。本文から五字以内でぬき出して書きましょう。

(4) 文章〔い〕において、(a) (b) (c) (d) (e) には様子を例える言葉が入ります。組み合わせとして最もふさわしいものを次の1から4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

1. a. いらいら b. ざんざん c. せかせか
d. どんどん e. やけるような
2. a. いらいら b. どんどん c. とぼとぼ
d. うつすらと e. ほのかな
3. a. むかむか b. しとしと c. すたすた
d. ほんのりと e. たしかな
4. a. どきどき b. どんどん c. とぼとぼ
d. はらはら e. かすかな

(5) 文章〔う〕の(イ)にあてはまる言葉を、文章〔う〕の本文からぬき出して書きましょう。

(6) 文章〔あ〕、〔い〕、〔う〕にある(A)に共通してあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の1から4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

1. また 2. すると 3. そして 4. しかし

(7) 俳句「梅一輪一輪ほどのあたたかさ」と同じ作者が作った句として「うぐひす(い)の聲(こゑ)に起行雀(おきゆくすずめ)かな」(うぐいすの鳴く声を聞いて、すずめが鳴き始めたことだな)があります。この句と同じ季節の様子を書いた句を次の1から4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

1. 朝顔(あさがお)につるべとられてもらい水
2. 思(し)ふ人(ひと)の側(そば)へ割(わり)込む炬燵(こたつ)哉
3. チューリップ(チューリップ)喜び(よろこ)だけを持つている
4. 鈴虫(すずむし)の音をくらべむと目(め)をつむる

三つの文章を読んだ後のたろうさん、はなこさん、じろうさんの会話

たろうさん 同じ俳句を読んで書かれた文章ですが、読み手によって

俳句のとらえ方がちがっていておもしろいですね。

はなこさん 私も同じことを思いました。この句はひろし先生から教

えてもらったように「寒梅が一輪咲いている。それを見ていると梅一輪ほどのあたたかさを感じられる」ということはわかるけれども、これがいつのことなのか、どこのことなのか、そこにはどのような思いがあるのかなどは読み手にまかされています。だから同じ俳句を読んだ書いた文章であっても、これほどのちがいがあるのでしょうか。

じろうさん 文章あ、い、うでは、いずれも俳句にある「梅の花」

を例える表現を使っていました。それぞれの例えからどのようなあたたかさであるのかが伝わってきてよいと思

はなこさん 私もそこに着目しました。「梅の花一輪ほどのほんの少し

のあたたかさ」のそれぞれの例え方がとても効果的です。

たろうさん この句は字余りだと気づきました。□・□・□という俳

句のきまりを守っていないけれども、同じ言葉を重ねるなどの工夫があつてよいと感じました。

じろうさん 字余りだからこそ「梅一輪」というはじめのところが際

立つ^だのではないかと私は感じました。それから、「梅の花」にふれたことで人物に起こったことがそれぞれの文章から伝わってきました。

はなこさん たしかに伝わってきますね。三つの文章を読んで思った

のですが、このような文章を書くということは俳句を深く読むということにもつながるのではないのでしょうか。私も俳句を深く読み味わうために、このような文章を今度書いてみたいと思いました。

(8) ———線①「俳句にある『梅の花』を例える表現」とあります。文章

あ、い、うで「梅の花」を例えている表現をそれぞれぬき出して書

(9) —線②について、「□・□・□」には、俳句の音数を表す数字が入ります。□にあてはまる数字をそれぞれ書きましょう。

(10) —線③について、「梅の花」にふれたことで人物に起こったこととして、伝わってくる内容の組み合わせとして、最もふさわしいものを次の1から6の中から一つ選び、番号で答えましょう。

1. [あ]は、梅の花にふれたことにより、自分から行動を起こしてみようという気持ちへと変化している。また、[い]と[う]は、梅の花にふれたことにより、不安な気持ちがおちついてきている。

2. [い]は、梅の花にふれたことにより、だれかの役に立ちたいという気持ちが高まっている。また、[あ]と[う]は、梅の花にふれたことにより、人を信じることの大切さを感じている。

3. [う]は、梅の花にふれたことにより、他者を思いやる気持ちが高まっている。また、[あ]と[い]は、梅の花にふれたことにより、自分の考えを伝えていくことの大切さを感じている。

4. [あ]は、梅の花にふれたことにより、前向きな気持ちへと変化して

いる。また、[い]と[う]は、梅の花にふれたことにより、世の中にある不思議な出来事に対しておそれを感じている。

5. [い]は、梅の花にふれたことにより、周囲への感謝の気持ちがめげえはじめている。また、[あ]と[う]は、梅の花にふれたことにより、消極的などころを直したいという気持ちに変化している。

6. [う]は、梅の花にふれたことにより、他者の思いを感じ、自分の感情が大きく動かされている。また、[あ]と[い]は、梅の花にふれたことにより、前向きな気持ちへと変化している。

問題 2 4月の中学校入学後に行われた学級会で、けいこ先生が話した内容を読み、問題に答えましょう。

さあ、みなさん。川崎高等学校附属中学校1年4組40人での生活がスタートしました。これからの中学校生活がより充実するように、みなさんには知っておいてほしいことがあります。それは、この中学校の「生徒会年間テーマ」です。このテーマに全校生徒が少しでも近づくために、学校の様々な仕事を分担します。その仕事のひとつが、委員会です。今日は、このクラスの委員会メンバーを決めていきましょう。今年度は、7つの委員会でこの学校を運営します。小学校では全員が委員会に所属しますが、中学校では委員会に所属するのは14名です。また、それぞれ定員が決まっていますので、必ずしも希望する委員会に入れるとは限りません。委員会の定員数や、生徒会年間テーマに込められた意味を確認して、あなたが希望する委員会に立候補してください。

生徒会年間テーマ

「360°」

【込められた意味】

「全校生徒360人が360度様々な方向に個性を發揮できる学校にしよう」という思いが込められています。

【取り組んでいきたいこと】

- ・みんなの個性をいかせる温かな雰囲気^{ふんいき}を大切にする
- ・おたがいに協力し合う
- ・目立たないことでもがんばる

| 委員会名 | 定員 | 仕事内容 |
|--------|--------|---|
| 学年委員 | 各クラス2名 | クラスの代表。学級会などで司会進行を行う。 |
| 新聞委員 | | クラス新聞作りをクラスで分担し、発行する。 |
| 図書委員 | | 本の貸し出しや、図書室の本の整理、管理を行う。 |
| 文化委員 | | お昼の校内放送や、学校行事での写真撮影 ^{きつえい} を行う。 |
| 風紀委員 | | 朝のあいさつ運動や、生活の決まりを守るように呼びかける。 |
| 管理防災委員 | | 清掃 ^{せいそう} チェックや、清掃用具の管理をする。避難経路 ^{ひなん} 図を確認する。 |
| 保健委員 | | 加湿器 ^{かじつき} の管理や水質検査、健康保持を呼びかける。 |

問題

あなたはどうしても委員会に所属したかったのですが、残念ながら入ることができませんでした。この状況^{じょうきょう}の中で、あなたは学校やクラスのために、どのように行動しますか。あなたのよさを明確にし、【取り組んでいきたいこと】をふまえて、あなたのよさを生かした具体的な行動を書きましょう。また、このような自分の希望がかなわない経験^{けんけん}を乗り越えることで、あなたは自分自身がどのように成長すると思いますか。あなたの考えを書きましょう。

[注意事項]

- 解答用紙にたて書きで書きましょう。
- 解答用紙に 300 字以上 400 字以内で書きましょう。
- 原稿用紙^{げんこう}の正しい用法で書きましょう。また漢字を適切に使いましょう。
- はじめに題名などは書かず、1 行目、1 マス空けたところから書きましょう。自分の名前は、氏名らんに書きましょう。
- 3 段落以上の構成で書きましょう。
- 句読点〔。、〕やかっこなども 1 字に数え、1 マスに 1 字ずつ書きましょう。また、段落を変えたときの残りのマス目も字数として数えます。